

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3529		
科目名	犯罪と捜査		
担当教員	金山 泰介		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 4		
講義室	1207	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-F[探究力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1倫理的思考・社会認識 10% E1学識と専門技能 50% G1状況把握 10% I1理解・分析と読解 10% I2量的分析 10% I3情報分析 10%		
教員の実務経験	警察庁、都道府県警察、内閣官房、在タイ日本大使館等34年間の実務経験を基に、警察の行う犯罪捜査の手法と法令について具体的に説明します。（第3～6、8～10、14回）		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～4 定着期		
科目概要・キーワード	犯罪がますます複雑・巧妙化し、高度な科学技術を悪用した新たな犯罪も次々に現れる中で、高度な専門知識と最新の技術を活用して各種証拠資料の収集、分析、鑑定を行って犯罪を立証し、犯人を割り出し、公判に耐えうる証拠を提供する科学捜査は、犯罪の立証における客観的証拠が重要視される中、その重要性がますます高まっています。本科目では、犯罪捜査の基本及び科学捜査の意義と重要性を考察したうえで、法医学、心理学、物理学、化学などに基礎をおいたDNA型鑑定、死因究明のための薬・毒物検査、ポリグラフ検査、顔画像解析等の科学捜査の現状を概観します。授業形態は、講義形式で行います。「授業形態は(講義・実技・実習・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。」（キーワード）犯罪捜査・科学捜査・犯罪鑑識		
授業の趣旨	■副題 犯罪捜査の実務を学ぶ。 ■授業の概要 警察の行っている犯罪捜査の様々な手法についての知識を習得するとともに、司法手続における法的位置づけについての理解を深める。 ■授業のポイント		

	犯罪捜査は、法令に従って厳正に行われるものであるが、具体的な条項が捜査の手法にどのように反映されているのかを感じ取る。	
総合到達目標	■一般目標（GIO） 警察が行う犯罪捜査について、その法的根拠及び基本的事項を具体的に説明できるようになること。 ■個別行動目標（SBOs） ・刑事訴訟法の捜査の概要について説明できる。（第2、3、10回） ・犯罪捜査における警察と検察の役割を説明できる。（第2回） ・犯罪鑑識の基本的内容を説明できる。（第8、9回） ・主な科学捜査の手法の概要を説明できる。（第11～13回）	
成績評価方法	■レポート2回（80%）：適用ループリック C1・E1・G1・I1・I2・I3 （評価の視点） 社会安全政策に関する断片的な知識の羅列ではなく、社会の発展や国民の意識の変化とのかかわりなど政策の背景を踏まえた総合的な論述を求めます。理解の正しさ、表現力も評価します。 （フィードバックの方法） 授業内で論点等の解説をします。 ■授業における個別質問への回答内容等授業参加度（20%）：適用ループリック E1・I1 （評価の視点） 予習・復習の励行の有無が評価されます。 （フィードバックの方法） 授業内で説明します。	
履修条件	警察制度履修者が望ましい。	
履修上の注意点	犯罪に関する報道に関心を持って積極的に接してください。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 講義の項目、評価方法を理解する。 ③予習（60分）シラバスの精読 ④復習（60分）講義ノートを整理し自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。
	2	①授業テーマ 刑事司法手続きの概観 ②授業概要 犯罪認知から刑の執行までにいたる我が国の刑事司法手続きを捜査手続きを中心に(E)を説明できるようになる。(E1・G1・I1・I2・I3) ③予習（120分）事前配布資料を精読し、犯罪者が検挙されてからの刑事司法手続きについてその流れを考察する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、犯罪者がその刑事責任によって様々な段階で処分されていることについてまとめる。
	3	①授業テーマ 犯罪捜査の意義と原則 ②授業概要 警察の行う犯罪捜査の意義と任意捜査の原則（E）について英米法との比較を踏まえて説明できるようになる。（E1・I1） ③予習（120分）事前配布資料及びテキスト該当部分を精読し、犯罪捜査の法的根拠を確認する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、警察、検察それぞれの捜査の違いをまとめる。
	4	①授業テーマ 警察捜査の類型とプロセス ②授業概要 警察が行う一般的な犯罪捜査類型とそのプロセスの流れ（E）を、「教員の実務経験」に基づいた殺人事件の解説を例に説明できるようになる。（E1・G1・I1） ③予習（120分）事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、捜査の流れの概要を考察する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、捜査の各段階における重要事項をまとめる。
	5	①授業テーマ 国際捜査 ②授業内容 国際的な捜査の実情及びそれをめぐる諸問題(E)を説明できるようになる。「教員の実務経験」に基づき具体的に説明します。（E1・I1） ③予習（120分）事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、犯罪の国際性を考察する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、国際捜査協力の重要事項をまとめる。
	6	①授業テーマ 犯罪捜査と報道 ②授業概要 犯罪捜査と報道機関の活動の実態及びそれをめぐる諸問題（E）を説明できるようになる。「教員の実務経験」に基づき具体的に説明します。（C1・E1・I1） ③予習（120分）事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、捜査報道の

	在り方を考える。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、重要な課題について警察と報道機関との見解の違いをまとめる。
7	①授業テーマ 様々な捜査手法 ②授業概要 合意制度、通信傍受、サイバー犯罪捜査等比較的新しい捜査手法に関する法制度（E）を説明できるようになる。「教員の実務経験」に基づき具体的に説明します。（E1・I1） ③予習（120分）事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、捜査の隘路について考察する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、捜査の必要性和人権保護との関係について、主要判例に基づきまとめる。
8	①授業テーマ 中間試験と前半のまとめ ②授業内容 前半の授業内容から出題する。出題の解説に基づいて前半の講義のポイントを押さえる。（C1・E1・G1・I1・I2・I3） ③予習（240分）中間試験の準備 ④復習（60分）解説に基づき答案を再構成する。
9	①授業テーマ 検視、死因の究明と被害者の特定 ②授業概要 犯罪の端緒としての検視及び死因の究明等に関する法制度及びそれをめぐる諸問題（E）を説明できるようになる。「教員の実務経験」に基づき具体的に説明します。（C1・E1・I1・I2） ③予習（120分）事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、死因究明の重要性を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、死因究明制度の重要事項をまとめる。
10	①授業テーマ 鑑識活動 ②授業概要 犯罪現場における鑑識活動の概要及び主な鑑識活動実施上の留意点（E）を説明できるようになる。「教員の実務経験」に基づき具体的に説明します。（E1・I1） ③予習（120分）事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分の精読し、犯罪鑑識の意義を考察する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、各種鑑識活動上の留意点をまとめる。
11	①授業テーマ 被疑者の逮捕と取調べ ②授業概要 被疑者の逮捕、捜索及び取調べに関する法制及びそれをめぐる実務上の諸問題（E）を説明できるようになる。「教員の実務経験」に基づき具体的に説明します。（E1・I1） ③予習（120分）事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、逮捕取調べ等の法的根拠を確認する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、逮捕、取調べに関する重要事項を、主要判例に基づきまとめる。
12	①授業テーマ 科学捜査Ⅰ（指掌紋、足痕跡、DNA型、生物、毛髪鑑定） ②授業概要 指掌紋及び足痕跡並びにDNA型等生物鑑定（E）について説明できるようになる。（E1・I1） ③予習（120分）事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、各種鑑定の概要を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、各鑑定の重要事項をまとめる。
13	①授業テーマ 科学捜査Ⅱ（工学、化学、情報科学鑑定、プロファイリング） ②授業概要 弾道、画像、火災・爆発の工学鑑定及び薬物、毒劇物、微生物の化学鑑定、文書、声紋鑑定及び犯罪者プロファイリング（E）について説明できるようになる。（E1・I1） ③予習（120分）事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分の精読し、各鑑定の概要を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、各鑑定の重要事項をまとめる。
14	①授業テーマ ケーススタディ ②授業概要 教員の実務経験に基づく殺人事件捜査を素材としたケーススタディ（G、I）により、現実の捜査を多角的に理解する。「教員の実務経験」に基づき具体的に説明します。（C1・E1・G1・I1・I3） ③予習（120分）殺人事件捜査に関する講義についてテキスト、ノート等を再確認する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、殺人事件捜査の現実をまとめる。
15	①授業テーマ 期末試験と講義のまとめ ②授業概要 講義全体の内容から出題する。出題の解説に基づき講義のポイントを押さえる。（C1・E1・G1・I1・I2・I3・K1）

	③予習（300分）試験の準備 ④復習（60分）解説に基づき答案を再構成する。
関連科目	社会安全政策論(RMGT3521) 警察制度(RMGT3525) 警察政策(RMGT3530)
教科書	「新版 警察行政概論」金山泰介 立花書房（2019）
参考書・参考URL	「社会安全政策論」警察政策学会編 立花書房（2018）
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 初回授業時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜1限（重複を避けるためメールで連絡願います。）その他の時間でもメールで事前アポをとることにより、研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 パブリックセキュリティ（70%）災害マネジメント（10%）グローバルセキュリティ（10%）情報セキュリティ（10%） ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学（50%）法学（50%）

